

## 広島市における感染症発生動向調査結果について(2011年)

### 生活科学部

#### はじめに

広島市では、広島市感染症発生動向調査事業実施要綱に基づき、衛生研究所に感染症情報センターを設置し、市域の感染症情報を集計、解析するとともに、その結果をホームページ等により、市民、関係機関等へ提供している。

今回、2011年の広島市における感染症患者発生状況をまとめたので報告する。

#### 方法

##### 1 対象疾患

対象疾患は、国の実施要綱に示されている一類感染症(エボラ出血熱等7疾患)、二類感染症(急性灰白髄炎等5疾患)、三類感染症(コレラ等5疾患)、四類感染症(E型肝炎等42疾患)、全数把握対象の五類感染症(アメーバ赤痢等16疾患)および定点把握対象の五類感染症(インフルエンザ等26疾患)の合わせて101疾患とした。

##### 2 患者情報の収集

全数把握対象の感染症については市内医療機関から、定点把握対象の五類感染症については定点医療機関から週単位または月単位で、各行政区に置かれている保健センターに届出される。各保健センターは、感染症発生動向調査システムにより患者情報を感染症情報センターへ報告し、感染症情報センターでは中央感染症情報センター(国立感染症研究所)へ全市分の患者情報を報告するとともに集計処理を行った。

なお、市内の患者定点の内訳は、インフルエンザ定点(小児科定点を含む)37、小児科定点24、眼科定点8、性感染症定点9、基幹定点7である。

##### 3 対象期間

全数把握対象疾患および月報対象の定点把握対象疾患については、平成23年1月1日～12月31日とし、週報対象の定点把握疾患は、平成23年1月3日～平成24年1月1日(2011年第1週～第52週)とした。

#### 結果

##### 1 全数把握対象疾患

医療機関から届出のあった疾患は、二類感染症は結核、三類感染症は細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症の2疾患、四類感染症はA型肝炎、オウ

ム病、つつが虫病、デング熱、ボツリヌス症、レジオネラ症の6疾患、五類感染症はアメーバ赤痢、ウイルス性肝炎、急性脳炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、後天性免疫不全症候群、梅毒、破傷風、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、風しん、麻しんの10疾患で、合わせて19疾患であった。一類感染症については届出がなかった。2011年における各疾患の届出数を表1に示した。比較的届出数の多かった疾患(結核を除く)は次のとおりである。

##### (1) 腸管出血性大腸菌感染症

29件の届出があり、前年の46件から減少した。すべて散发事例であった。月別では、6月が8件と最も多く、5月から9月の5か月間に23件の届出があった。血清型別では、O157が21件と最も多く、次いでO26が6件であった。年齢別では、10歳以下が9件と31%を占めていた。

##### (2) 後天性免疫不全症候群

16件の届出があり、前年の20件から減少した。このうち、エイズ患者が4件、HIV感染者が12件であった。

性別では、男性が15件とほとんどを占めていた。

表1 全数把握対象疾患の届出数(2011年)

類型	疾患名	届出数
二類	結核	252
三類	細菌性赤痢	9
	腸管出血性大腸菌感染症	29
四類	A型肝炎	1
	オウム病	1
	つつが虫病	3
	デング熱	1
	ボツリヌス症	2
五類	レジオネラ症	7
	アメーバ赤痢	6
	ウイルス性肝炎	9
	急性脳炎	9
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1
	後天性免疫不全症候群	16
	梅毒	6
	破傷風	2
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	
風しん	3	
麻しん	14	

年齢別にみると、20歳代から40歳代が多く、この年齢層が15件と94%を占めていた。感染経路は、性行為によるものが14件とほとんどを占めており、同性間が12件、異性間が2件であった。

### (3) 麻しん

14件の届出があり、前年の5件から増加した。1月に集団感染が発生したことから、月別では1月が6件、2月が3件と冬季が多かった。病型別では、麻しん(検査診断例)が10件、麻しん(臨床診断例)が2件、修飾麻しん(検査診断例)が2件であった。年齢別(5歳間隔)では、4歳以下が4件と多く、次いで5~9歳、および25~29歳がともに3件であった。ワクチン接種歴別では、接種歴なしが5件、接種歴不明が4件、1回接種が5件(うち2件は発症数日前に接種)であった。

## 2 定点把握対象五類感染症

### (1) 週単位報告疾患

インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点から毎週報告される18疾患の報告数を表2に示した。年間の定点当り累積報告数は、インフルエンザの322人が最も多く、続いて感染性胃腸炎309人、手足口病139人、水痘62.5人、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎57.9人、流行性角結膜炎36.0人、伝染性紅斑28.0人、マイコプラズマ肺炎27.2人、流行性耳下腺炎24.5人、突発性発しん24.1人、ヘルパンギーナ23.8人、RSウイルス感染症17.1人、咽頭結膜熱15.2人などとなっている。年間の推移に特徴が認められたインフルエンザ、感染性胃腸炎、手足口病およびマイコプラズマ肺炎について、広島市と全国における週別の定点当り報告数の推移を図に示した。

#### a インフルエンザ

年間の定点当り累積報告数は322人で、前年の42.1人と比べ前年比7.65と大きく増加した。

2010/11シーズンは、2011年第1週に定点当り2.00人と流行期に入った。その後急増して第5週に定点当り28.5人のピークとなった。その後やや減少したが再び増加し、第11週に定点当り29.2人と2度目のピークを迎えた。その後は大きく減少し、第19週に定点当り0.84人とほぼ終息状態となった。

2010/11シーズンは、インフルエンザウイルス(H1N1)2009による1度目のピークとインフルエンザウイルスB型による2度目のピークがみられたことが特徴的であった。

#### b 感染性胃腸炎

年間の定点当り累積報告数は309人で、前年の437人と比べ前年比0.70とやや減少した。年間の累積報告数は、小児科定点患者総数の43.6%を占め、小児科定点報告対象疾患の中で最も多かった。

第9週に定点当り12.9人のピークを迎えた後は定点当り11人前後の状態推移したが、4月中旬頃から減少傾向となり、夏季は低い水準であった。11月中旬頃から増加傾向となった。

#### c 手足口病

年間の定点当り累積報告数は139人で、前年の68.3人と比べ前年比2.03と大きく増加し、2005年以来の大きな流行となった。年間の累積報告数は、小児科定点患者総数の19.6%で、小児科定点報告対象疾患のうち2番目に多かった。

4月より増加傾向で推移し、第27週に定点当り16.7人のピークを迎えた。以降は減少し、第45週に定点当り1人未満となった。

#### d マイコプラズマ肺炎

年間の定点当り累積報告数は27.2人で、前年の11.9人と比べ前年比2.29と大きく増加した。7月頃から増加傾向で推移し、全国的にも昨年と比べ報告数が多かった。

### (2) 月単位報告疾患

月単位で報告される定点把握五類感染症(性感染症定点から報告される性感染症4疾患および基幹定点から報告される薬剤耐性菌感染症4疾患)の報告数を表3に示した。

#### a 性感染症

性感染症4疾患のうち、年間の定点当り累積報告数が最も多かったものは、性器クラミジア感染症の34.2人で、次いで淋菌感染症の22.9人であった。性器ヘルペスウイルス感染症と尖圭コンジローマを加えた性感染症4疾患の総数は、前年比0.98とほぼ横ばいであった。

#### b 薬剤耐性菌感染症

年間の定点当り累積報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が77.3人と最も多く、次いでペニシリン耐性肺炎球菌感染症4.01人、薬剤耐性緑膿菌感染症1.14人の順であった。薬剤耐性アシネトバクター感染症は年間を通して報告がなかった。薬剤耐性菌感染症4疾患の総数は、前年比0.88とやや減少した。

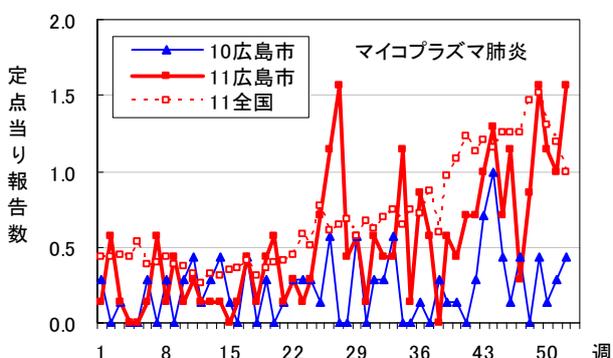
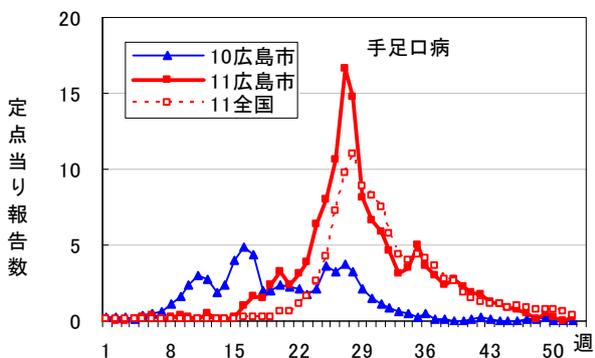
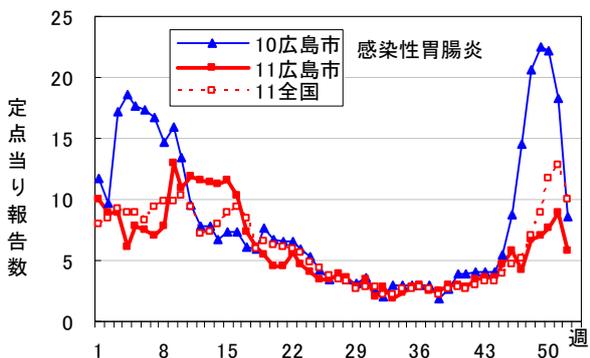
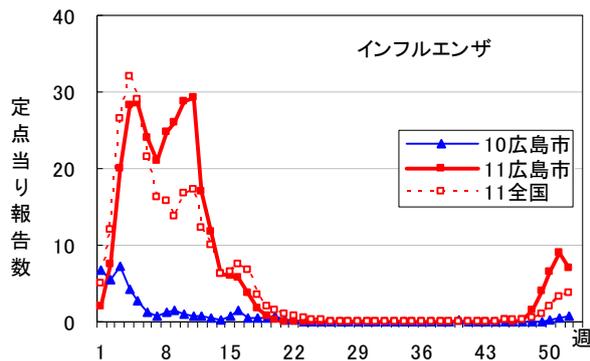


図 定点当り報告数の週別推移

表2 定点把握対象五類感染症患者報告数  
(週単位報告分) (2011年)

疾患名	報告数
インフルエンザ	11,905 (322)
咽頭結膜熱	363 (15.2)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1,384 (57.9)
感染性胃腸炎	7,375 (309)
水痘	1,493 (62.5)
手足口病	3,300 (139)
伝染性紅斑	668 (28.0)
突発性発しん	574 (24.1)
百日咳	189 (7.96)
ヘルパンギーナ	566 (23.8)
流行性耳下腺炎	584 (24.5)
RSウイルス感染症	408 (17.1)
急性出血性結膜炎	6 (0.79)
流行性角結膜炎	281 (36.0)
細菌性髄膜炎	6 (0.85)
無菌性髄膜炎	9 (1.26)
マイコプラズマ肺炎 (オウム病を除く)	191 (27.2)
クラミジア肺炎	2 (0.28)

( )内は定点当り累積報告数

表3 定点把握対象五類感染症患者報告数  
(月単位報告分) (2011年)

疾患名	報告数
性器クラミジア感染症	308 (34.2)
性器ヘルペスウイルス感染症	76 (8.44)
尖圭コンジローマ	65 (7.23)
淋菌感染症	206 (22.9)
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 感染症	541 (77.3)
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	28 (4.01)
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0 (0.00)
薬剤耐性緑膿菌感染症	8 (1.14)

( )内は定点当り累積報告数